

清家 篤 (せいけ あつし)

日本私立学校振興・共済事業団理事長、慶應義塾学事顧問、慶應義塾大学客員教授。博士（商学）。専攻は労働経済学

1978年、慶應義塾大学経済学部卒業、1980年慶應義塾大学商学部助手、1985年同助教授を経て、1992年より同教授。2007年より商学部長、2009年5月から2017年5月まで慶應義塾長。この間、カリフォルニア大学客員研究員、ランド研究所研究員、経済企画庁経済研究所客員主任研究官、労働政策審議会委員・同雇用保険部会長・同若年労働者部会長・同点検評価部会長（厚生労働省）、東日本大震災復興構想会議委員（内閣官房）、社会保障制度改革国民会議会長（内閣）、日本私立大学連盟会長、日本労務学会会長、天皇の公務の負担軽減等に関する有識者会議構成員（内閣官房）、ハーバード大学客員教授などを歴任。現在、経済社会総合研究所名誉所長（内閣府）、社会保障制度改革推進会議議長（内閣官房）、産業構造審議会委員・同製造業分科会長（経済産業省）、ILO仕事の未来世界委員会（ILO Global Commission the Future of Work）委員などを兼務。主な著作に『金融ジェロントロジー』（編著）東洋経済新報社（2016年）、『雇用再生』NHKブックス（2013年）、『60歳からの仕事』（共著）講談社（2009年）、『高齢者の働きかた』（編著）ミネルヴァ書房（2009年）、『エイジフリー社会を生きる』NTT出版（2006年）、『高齢者就業の経済学』（共著）日本経済新聞社（2004年、2005年の第48回日経・経済図書文化賞受賞）、『生涯現役社会をめざして』日本放送出版協会（2003年）、『勝者の代償』（訳）東洋経済新報社（2002年）、『労働経済』東洋経済新報社（2002年）、『生涯現役社会の条件』中公新書（1998年）、『人事と組織の経済学』（共訳）日本経済新聞社（1998年）、『高齢化社会の労働市場』東洋経済新報社（1993年、1994年の第17回労働関係図書優秀賞、1994年の「東京海上各務記念財団優秀図書賞」受賞）、『高齢者の労働経済学』（1992年、1992年の義塾賞、1993年の沖永賞）日本経済新聞社、などがある。2016年フランス政府よりレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを受章。